

保険・証券・その他金融

1. 評価対象企業（9 社）

- 【損保】（3 社） SOMPO ホールディングス、MS&AD インシュアランスグループホールディングス、東京海上ホールディングス
- 【生保】（3 社） かんぽ生命保険、第一生命ホールディングス、T&D ホールディングス
- 【証券】（2 社） 大和証券グループ本社、野村ホールディングス
- 【その他金融】（1 社） オリックス

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法等

（1） 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価 項目（注）数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	5	26
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	6	31
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	3	7
④ESG に関連する情報の開示	ESG 関連	6	28
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	1	8
計		21	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は 131 頁参照。なお、評価分野④は「コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示」から名称を変更した。

（2） 評価実施アナリストは 20 名（所属先 20 社）である。（氏名等は 132 頁参照）

3. 評価結果

（1） 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は 130 頁参照）

- ① 本年度は、評価項目分野のうちコーポレート・ガバナンス関連を ESG 関連に名称変更し、同分野を中心に項目数・内容・配点を見直した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 70.5 点（昨年度 70.3 点）、総合評価点の標準偏差は、8.0 点（昨年度 7.0 点）であった。
- ② 業態別の総合評価平均点を見ると、損保（3 社）が 77.2 点（昨年度 76.3 点）、生保（3 社）が 67.2 点（昨年度 67.5 点）、証券（2 社）が 64.7 点（昨年度 66.8 点）となり、本年度も、損保が生保、証券を上回った。その他金融（1 社）は 72.0 点（昨年度 67.5 点）となり、大きく上がった。
- ③ 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、経営陣の IR 姿勢等が 71%（昨年度同率）、説明会等が 72%（昨年度 71%）、フェア・ディスクロージャーが 80%（昨年度 79%）、ESG 関連が 69%（昨年度同率）、自主的情報開示が 62%（昨年度 61%）となり、5 分野いずれも昨年度と同程度であった。
- ④ 評価項目について見ると、全 21 項目中、80%以上の平均得点率は次の 2 項目となった（いずれもフェア・ディスクロージャーの項目で、昨年度と同じ）。

- (a) 「投資家にとって重要と判断される事項の開示は、積極的に行われ、遅滞なく十分なものです。短期、中期での業績見通し上有益な情報（月次開示を含む）、ガイダンスをプレスリリース、ウェブサイトなどで広く開示していますか」（平均得点率 84%〔昨年度 80%〕）（得点率（評価点／配点（以下省略））：70% 台 2 社・80% 台 4 社・90% 台 3 社）
- (b) 「経営陣および IR 部門が、株価に影響を及ぼす重要情報について、公平な情報開示に十分な注意を払っていますか（報道機関等への対応含む）」（平均得点率 81%〔昨年度 83%〕）（得点率：70% 台 2 社・80% 台 6 社・70% 台 1 社）
- ⑤ 一方、次の項目（**経営陣の IR 姿勢等**の中の 1 項目（本年度の新設項目））は、平均得点率が最も低かった。
- ・「社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか」（平均得点率 51%）（得点率：30% 台 1 社・40% 台 5 社・60% 台 1 社・70% 台 2 社）
- ⑥ **ESG 関連**の 6 項目は、次のとおりとなった（(b) (e) (f) は、本年度の新設項目）。
- (a) 「コーポレートガバナンス・コードの各項目（例えば、役員報酬の算定方式、政策保有株式に係る情報）について、進捗状況や、経営陣としての目的などが十分に説明されていますか」（平均得点率 73%〔昨年度 70%〕）（得点率：60% 台 2 社・70% 台 6 社・80% 台 1 社）
- (b) 「社外取締役の選定プロセスや関与について、十分に説明されていますか」（平均得点率 63%）（得点率：50% 台 1 社・60% 台 7 社・70% 台 1 社）
- (c) 「資本政策（資本コストの考え方を含む）、株主還元方針が十分に説明されていますか」（平均得点率 70%〔昨年度同率〕）（得点率：50% 台 2 社・60% 台 4 社・70% 台 1 社・80% 台 2 社）
- (d) 「中・長期経営計画（ROE の他、業界の特性を踏まえた利益指標や収益性指標やその他の KPI）を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていますか」（平均得点率 69%〔昨年度 67%〕）（得点率：50% 台 3 社・60% 台 1 社・70% 台 3 社・80% 台 2 社）
- (e) 「E（環境）・S（社会）に関する適切な目標設定はなされていますか」（平均得点率 70%）（得点率：50% 台 1 社・60% 台 3 社・70% 台 4 社・80% 台 1 社）
- (f) 「上記（e）の目標の達成に向け、適切に PDCA サイクルを回し、適宜アップデートしていますか」（平均得点率 67%）（得点率：50% 台 1 社・60% 台 5 社・70% 台 3 社）

(2) 上位 3 企業の評価概要

第 1 位 東京海上ホールディングス（ディスクロージャー優良企業〔5 回連続 5 回目〕、総合評価点 83.4 点〔昨年度比+4.5 点〕）

- ① 同社は、5 分野全てにおいて第 1 位となった。具体的には、**経営陣の IR 姿勢等**（得点率〈以下省略〉88%）、**説明会等**（82%）、**フェア・ディスクロージャー**（87%）、**ESG 関連**（82%）、**自主的情報開示**（78%）となり、いずれの分野においても、昨年度に比べ得点率が改善した。特に、**経営陣の IR 姿勢等**および **ESG 関連**においては他社との差を上げた。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「社外取締役との対話」（第 2 位）を除く 4 項目において、第 1 位となった。これらに関連して、CEO、CFO がリーダーシップを持って IR を推進するというスタンスが際立っているとの声や、決算電話会議にもマネジメントが関与するなど積極的かつ丁寧な対話を行っているとの声が寄せられた。また、投資家の意向を踏まえて開示内容を適宜見直すなど、企業価値向上のために市場に耳を傾ける姿勢が見られるとの声や、社外取締役の説明会出席を評価する声もあった。
- ③ **説明会等**においては、「決算発表日」を除く 5 項目において、第 1 位または同得点第 1 位となった。特に、「決算説明会における会社側の説明（質疑応答を含む）や資料が十分かつ効率的な運営に配慮したものになっていること」は、昨年度に比べ得点率が 10 ポイント以上改善し、90%以上の得点率となった。これらに関連して、決算説明会や説明資料において、会社が伝えたいポイントが明瞭に整理されているとの声や、投資家の疑問点等を的確に認識し開示内容を充実させているとの声が寄せられた。なお、米国子会社を含む海外事業における地域ごとの財務情報についてさらなる充実を望む声があった。「決算発表日」については、昨年度に続き

て平均得点率に達しなかった。

- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」の2項目は共に、最も高い評価となり、90%以上の得点率となった。また、「リモートツールによる情報提供」は、同得点第1位となった。なお、財務関連データのエクセル開示の一層の充実を望む声があった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、6項目全てが最も高い評価となった。なお、定量的な目標に関してより細やかな中間目標の設定を望む声があった。また、他社に先んじて、社外取締役の選任プロセスについての一層の明確化や、社会課題の解決にもう一段踏み込んだ取組みと説明を行うことを期待する声もあった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「決算説明会、IR 部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門、ESG 関連説明会等を積極的に実施していること」は、昨年度に比べ得点率が改善し、第1位（昨年度第2位）となった。評価できるイベントとして、海外事業説明会、再生可能エネルギーマーケットに関する説明会を挙げる声が多かった。また、現場の声が聞くことができるとして D&I 説明会を評価する声もあった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第2位 第一生命ホールディングス（総合評価点 78.1 点〔昨年度比+0.5 点〕、昨年度第2位）

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等（82%）、説明会等（81%）、ESG 関連（76%）が第2位、フェア・ディスクロージャーが同得点第2位（81%）、自主的情報開示が第6位（60%）となった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣の IR 姿勢」（第2位）および「IR 部門の機能」（第2位）が共に、90%以上の得点率となった。「会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点や潜在的なリスクについても、積極的に開示する姿勢が見られること」（第2位）も、85%以上の得点率となった。これらに関連して、CEO、CFO の説明が的確かつ具体的であるとの声や、マネジメントの考えが一貫しており、経営に浸透しているとの声が寄せられた。また、経営陣の IR 姿勢はここ数年で顕著な改善が見られるとの声もあった。「社外取締役との対話」は第3位となった。
- ③ **説明会等**においては、「事業または財務上のリスク情報、金融規制関連、社内リスク管理上のリスク量等（自主的開示を含む）の開示を十分にしていること」が、同得点第1位となった。また、「決算説明会における会社側の説明（質疑応答を含む）や資料が十分かつ効率的な運営に配慮したものになっていること」（同得点第2位）および「決算資料・統合報告書等における開示」（第2位）は共に、85%以上の得点率となった。「主な連結子会社、関連会社の損益、財務および資本関係等の状況を十分に説明していること（合併・提携・買収による業績貢献・進捗状況を含む）」（第2位）も評価された。これらに関連して、図表の使い方を工夫しており、主要子会社ごとのサマリーも見やすいとの声や、資本政策や保険会計の業界特有の複雑さを丁寧に説明しているとの声が寄せられた。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」（2項目）は共に、昨年度に比べ得点率が改善し、85%以上の得点率となった。一方で、「リモートツールによる情報提供」（第7位）は昨年度に比べ、順位、得点率共に下がった。これに関連して、海外子会社等の開示資料のウェブサイトへの掲載やリンクの表示を望む声があった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「資本政策、株主還元策の開示」（同得点第1位）が、85%以上の得点率となった「コーポレートガバナンス」は、2項目共に、同得点第2位となった。また、「目標とする経営指標等」も第3位となった。これらに関連して、資本政策を見る上で重要な要素（リスク削減取組方針、ESR のターゲットレンジなど）がわかりやすく説明されているとの声が寄せられた。「E（環境）・S（社会）に関する情報開示」（2項目）は共に、平均得点率を上回った。
- ⑥ **自主的情報開示**の「決算説明会、IR 部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門、ESG 関連説明会等を積極的に実施していること」（第6位）は、平均得点率に達しなかった。

第3位 SOMPO ホールディングス（総合評価点 74.7 点〔昨年度比+0.7 点〕、昨年度第4位）

- ① 同社は、フェア・ディスクロージャーが同得点第2位（81%）、ESG 関連（76%）、自主的情報開示（68%）が第3位、経営陣の IR 姿勢等（74%）、説明会等（75%）が第4位となった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣の IR 姿勢」（第3位）および「IR 部門の機能」（第3位）が共に、

85%以上の得点率となった。本年度の新設項目である「社外取締役との対話」（同得点第4位）は、平均得点率に達しなかった。「IRの基本スタンス」の2項目は共に、同得点第4位となったが、そのうちの「会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点や潜在的なリスクについても、積極的に開示する姿勢が見られること」は、平均得点率に達しなかった。なお、CEO、COOの役割を明確にした積極的なIR姿勢を望む声があった。

- ③ **説明会等**においては、「事業または財務上のリスク情報、金融規制関連、社内リスク管理上のリスク量等（自主的開示を含む）の開示を十分にしていること」が第3位となった。また、「主な連結子会社、関連会社の損益、財務および資本関係等の状況を十分に説明していること（合併・提携・買収による業績貢献・進捗状況を含む）」も、同得点第3位となった。なお、海外情報の一層の充実を望む声、開示情報をより幅広い投資家に伝える努力を求める声があった。「決算発表日」については、昨年度に続いて平均得点率に達しなかった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「投資家にとって重要と判断される事項の開示が、積極的に行われ、遅滞なく、十分なものであること。短期、中長期での業績見通し上有益な情報（月次開示を含む）、ガイダンスをプレスリリース、ウェブサイト上などで広く開示していること」が、同得点第2位となった。「経営陣およびIR部門が、株価に影響を及ぼす重要情報について、公平な情報開示に十分な注意を払っていること（報道機関等への対応含む）」（同得点第3位）および「リモートツールによる情報提供」（同得点第4位）は共に、平均得点率と同程度となった。
- ⑤ **ESG関連**においては、「目標とする経営指標等」が第2位となった。また、「資本政策、株主還元策の開示」および「E（環境）・S（社会）に関する情報開示」（2項目）は、いずれも第3位となった。なお、「コーポレートガバナンス」（2項目）のうちの「社外取締役の選定プロセスや関与について、十分に説明していること」（同得点第6位）は、平均得点率に達しなかった。これらに関連して、株主還元について、基礎還元と追加還元に整理されていて理解しやすいとの声があったほか、パーパス経営浸透のための取組み（社員のマイパーパスの設定）に期待するとの声もあった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「決算説明会、IR部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門、ESG関連説明会等を積極的に実施していること」は、第3位となった。評価できるイベントとして、海外保険事業戦略説明会や事業別説明会を挙げる声が多く寄せられた。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

○ オリックス（総合評価点 72.0 点〔昨年度比+4.5 点〕、第 5 位〔昨年度第 6 位〕）

- ① 同社は、昨年度から評価対象とした会社である。**フェア・ディスクロージャー**が同得点第2位（81%）、**説明会等**が第3位（76%）、**経営陣のIR姿勢等**（73%）、**ESG関連**（70%）が第5位、**自主的情報開示**が第8位（51%）となった。昨年度に比べ、**自主的情報開示**を除く4分野で得点率が改善した結果、総合評価点が大幅（+4.5 点）に上がった。
- ② **経営陣のIR姿勢等**においては、「経営陣のIR姿勢」（第4位）が、80%以上の得点率となり、「IRの基本スタンス」（2項目）が、共に第3位となった。これに関連して、経営トップが企業価値向上を強く意識し、IR姿勢に改善が見られる、経営トップの説明は的確かつ具体的であるとの声が寄せられた。また、事業別での中期利益見通しの開示を評価する声もあった。なお、各施策について、より定量的な説明を望む声があった。
- ③ **説明会等**においては、「決算説明会における会社側の説明（質疑応答含む）、資料は十分かつ効率的な運営に配慮したものになっていること」（同得点第2位）が、85%以上の得点率となった。また、「部門別・地域別等、財務分析に必要なデータは、一貫して十分に開示・説明されていること」も、同得点第2位となった。これらに関連して、マネジメントの回答は明快、簡潔で好印象を与える、中期目標や方向性に関する説明の改善に努めているとの声が寄せられた。また、財務関連データのエクセル開示の使いやすさを評価する声もあった。「決算発表日」（第3位）については、平均得点率を15ポイント以上上回った。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「リモートツールによる情報提供」が、同得点第1位となった。また、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」（2項目）も共に、80%以上の得点率となり、この分野において同得点第2位となった。なお、M&Aに関する情報の詳細について適時の説明を望む声があった。
- ⑤ **ESG関連**においては、「資本政策、株主還元策の開示」が、平均得点率に達せず、資本政策の開示内容について一層の改善を求める声があった。そのほかの5項目は、いずれも平均得点率を上回った。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、事業説明会の開催を望む声があった。

以 上

2022年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (保険・証券・その他金融)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR専門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	8766 東京海上ホールディングス	83.4	22.8	1	25.4	1	6.1	1	22.9	1	6.2	1	1
2	8750 第一生命ホールディングス	78.1	21.2	2	25.0	2	5.7	2	21.4	2	4.8	6	2
3	8630 SOMPOホールディングス	74.7	19.2	4	23.2	4	5.7	2	21.2	3	5.4	3	4
4	8725 MS&ADインシュアランスグループホールディングス	73.4	19.4	3	22.0	5	5.6	5	20.4	4	6.0	2	3
5	8591 オリックス	72.0	19.1	5	23.6	3	5.7	2	19.5	5	4.1	8	6
6	8795 T&Dホールディングス	66.3	16.8	6	21.0	6	5.5	7	18.1	6	4.9	4	5
7	8604 野村ホールディングス	65.3	16.2	7	20.6	8	5.6	5	18.0	7	4.9	4	7
8	8601 大和証券グループ本社	64.1	16.0	8	20.8	7	5.3	8	17.3	8	4.7	7	7
9	7181 かんぽ生命保険	57.2	14.5	9	18.7	9	5.1	9	15.6	9	3.3	9	9
	評価対象企業評価平均点	70.48	18.35		22.25		5.59		19.37		4.92		

2022年度評価項目および配点（保険・証券・その他金融）

【評価期間：2021年7月～2022年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（26点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
・経営陣が企業価値への意識を高め、決算説明会やミーティング等において経営方針を十分に説明するなどIRに積極的に関与していますか。経営陣が積極的に市場と十分にコミュニケーションをとる意欲を持っていますか。	10
(2)社外取締役との対話	
・社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか。	5
(3)IR部門の機能	
・IR部門に十分な情報が集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができますか。IR部門が投資家の意見を経営陣にフィードバックする機能を果たしていますか。	5
(4)IRの基本スタンス	
①会社にとって都合の悪い情報や自社の弱点や潜在的なリスクについても、積極的に開示する姿勢が見られますか。	2
②パンデミック、気候変動、サイバー攻撃などのリスクと機会に対する取組みを積極的に開示する姿勢が見られますか。	4
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（31点）	配点
(1)説明会、インタビューにおける開示	
①部門別・地域別等、財務分析に必要なデータは、一貫して十分に開示・説明されていますか。	7
②事業または財務上のリスク情報、金融規制関連、社内リスク管理上のリスク量等（自主的開示を含む）の開示が十分になされていますか。	7
③主な連結子会社、関連会社の損益、財務および資本関係等の状況は十分に説明されていますか（合併・提携・買収による業績貢献・進捗状況を含む）。	4
④決算説明会における会社側の説明（質疑応答を含む）、資料は十分かつ効率的な運営に配慮したものになっていますか。	5
(2)決算資料・統合報告書等における開示	
・業界のベスト・プラクティスを反映した必要十分な内容ですか。	5
(3)決算発表日	
・決算発表の迅速化に積極的に取り組んでいますか。	3
3. フェア・ディスクロージャー（7点）	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
①経営陣およびIR部門が、株価に影響を及ぼす重要情報について、公平な情報開示に十分な注意を払っていますか（報道機関等への対応含む）。	2
②投資家にとって重要と判断される事項の開示は、積極的に行われ、遅滞なく、十分なものですか。短期、中長期での業績見通し上有益な情報（月次開示を含む）、ガイダンスをプレスリリース、ウェブサイト上などで広く開示していますか。	2
(2)リモートツールによる情報提供	
・ウェブサイト等を活用した有用かつ、速やかな情報提供（説明会等の開催、決算説明会資料・質疑応答・動画配信、過去の長期財務データ）を日英両言語で行っていますか。	3
4. ESGに関連する情報の開示（28点）	配点
(1)コーポレートガバナンス	
①コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況や、経営陣としての目的などが十分に説明がなされていますか。例えば、役員報酬の算定方式、政策保有株式に係る情報。	4
②社外取締役の選定プロセスや関与について、十分に説明されていますか。	2
(2)資本政策、株主還元策の開示	
・資本政策（資本コストの考え方を含む）、株主還元方針が十分に説明されていますか。	6
(3)目標とする経営指標等	
・中・長期経営計画（ROEの他、業界の特性を踏まえた利益指標や収益性指標やその他のKPI）を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていますか。	6
(4)E（環境）・S（社会）に関する情報開示	
①E（環境）・S（社会）に関する適切な目標設定はなされていますか。	5
②上記の目標の達成に向け、適切にPDCAサイクルを回し、適宜アップデートしていますか。	5
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（8点）	配点
・決算説明会、IR部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門、ESG関連説明会等を積極的に実施していますか。 [過去1年間を目安に評価] [充実していた説明会等名をコメント欄に記入して下さい]	8

保険・証券・その他金融専門部会委員

部 会 長	村木 正雄	SMBC 日興証券
部会長代理	丹羽 孝一	シティグループ証券
	大塚 亘	JP モルガン証券
	辻野 菜摘	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
	伴 英康	ジェフリース証券会社 東京支店
	峯嶋 利隆	ニッセイ アセット マネジメント

評価実施アナリスト（20 名）

幾代 孝四郎	大和アセットマネジメント	戸田 浩司	りそなアセットマネジメント
今井 雅	アセットマネジメント One	西村 英一郎	野村アセットマネジメント
大芦 尚広	朝日ライフ アセットマネジメント	丹羽 孝一	シティグループ証券
大塚 亘	JP モルガン証券	花岡 宏行	JP モルガン・アセット・マネジメント
熊崎 崇文	三菱 UFJ 信託銀行	伴 英康	ジェフリース証券会社 東京支店
坂巻 成彦	野村証券	摩嶋 竜生	東海東京調査センター
佐藤 耕喜	みずほ証券	峯嶋 利隆	ニッセイ アセット マネジメント
佐野 滉介	第一生命保険	村木 正雄	SMBC 日興証券
柴崎 正人	三井住友トラスト・アセットマネジメント	簀谷 和子	シュローダー・インベストメント・マネジメント
辻野 菜摘	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券	渡辺 和樹	大和証券

（注） 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。